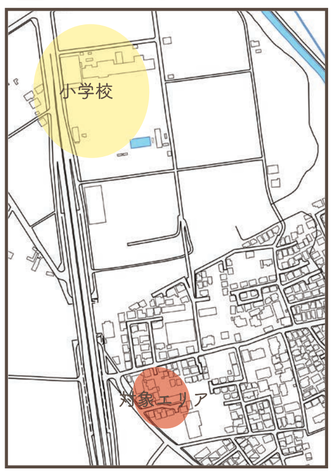
″まちの傘″

どんな日でも子供達や地域の人々の居場所になる。
何年経っても変わらずに居場所であり続ける″まちの傘″

21714016　岩谷　美咲

■ location



《神奈川県　綾瀬市》

神奈川県の中央部に位置する市で、農畜産業などが盛んである。
また、自然豊かで″子育てしやすいまち あやせ″として、
子育て支援に力を入れている。
特に最近では学童保育施設の運営や支援を積極的に行っている。

《対象敷地》

綾瀬市　落合南　長坂上バス停付近

《周辺環境》

市内外に向かうバスが発着する停留所があり、住宅や高齢者施設、
公園や畑に囲まれている。
小・中学生の通学路にもなっているため、幅広い年代の人々が
行き交う場所である。

《問題点》

市の取り組みの一環として学童保育の運営や支援に力を入れているものの、
″子育てしやすい＝子育てをする大人にとって良い環境″になってしまい、
″子供目線での良い環境″ではないと感じる。学童でのアルバイト経験からも、
安全・安心を第一とし、限られた人とだけ関わるような閉鎖的な環境が多く、
子供達がのびのびと過ごせる居場所は少ないと考える。
そのため、様々なことに興味関心をもち、身体的にも精神的にも大きく
成長していく子供にとって、過度に守られた環境ではなく、
より人との関わりやつながりが生まれる居場所が必要だと考える。

《計画内容》

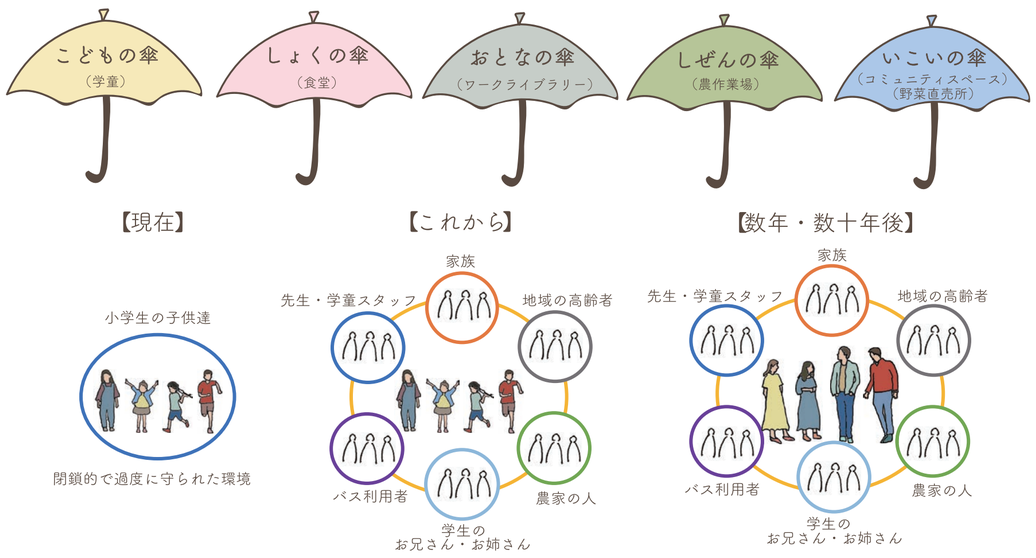
″小学生の放課後の居場所となる建物″を第一の目的とした上で、
子供達の地域に開けた学童だけではなく、周辺住民や綾瀬市を訪れた人々も利用できる
交流施設を提案する。

■Concept

″まちの傘″

雨が降っていても日差しの強い日でも、差せば″居場所″となる傘のように、
子供達や地域の人々のつながりが生まれる″まちの傘″（＝居場所）をつくる。

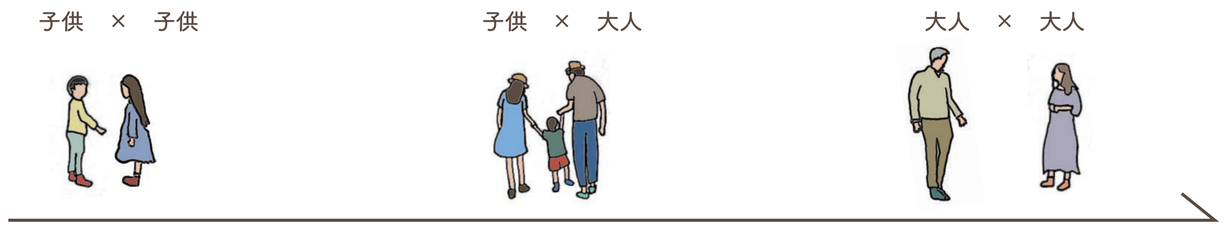
５つの機能を持った傘（＝建物）を中心とし、それぞれの傘の下でのつながりや
傘と傘の間に変化を生み出し、様々な居場所をつくっていく。



″小学生の時だけの居場所″ではなく、成長し大人になっても変わらない居場所となる。

■Diagram①　子供や大人の動きを観察する

①人と人の距離感を観察し、分析する。

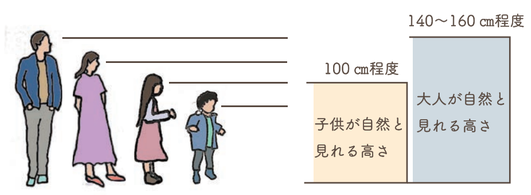


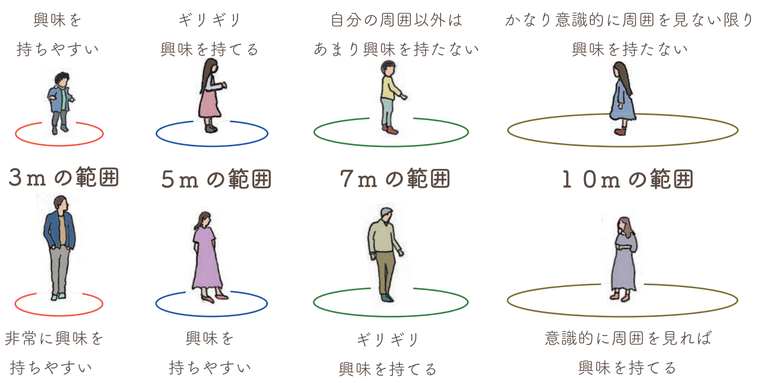
- くっついたり、触れたりする動作が多く、大人同士の距離感に比べてかなり近い。
- 50 ㎝以内の距離感で過ごしている。
- 大人に比べて初対面であっても近い距離感で過ごすことができる。

- 家族や親しい関係であれば子供同士の距離感と同様に50 ㎝以内で過ごしている。
- あまり親しくない関係の場合は 50 ㎝～80 ㎝程の距離感になっている。

- 家族や恋人、親しい関係であれば 50 ㎝以内の距離感になるが、相手に触れたり、近づいたりする時に限る。
- 親しい関係でも基本的には 50 ㎝以上の距離感で過ごしている。
- あまり親しくない関係の場合は 80 ㎝以上の距離感になっている。
- それぞれのパーソナルスペースを守るため、子供よりも一定の距離感を保とうとする。

②大人と子供の目線の高さや視野、興味を示す範囲の違いを観察し、分析する。

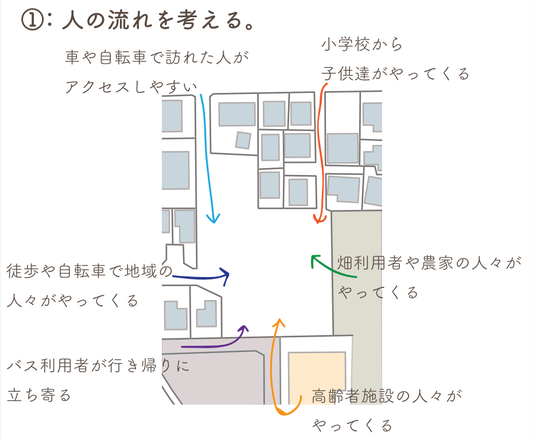




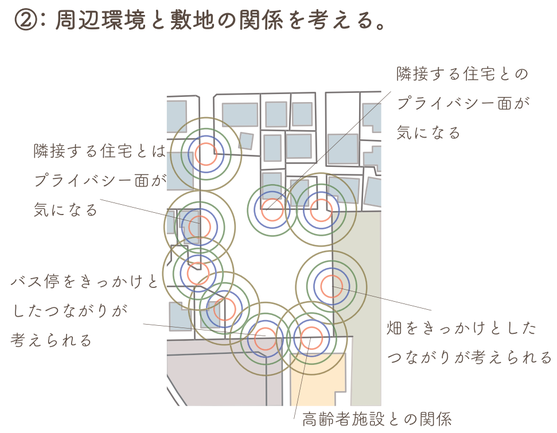
大人だからこそ見える景色、子供だからこそ見える景色がある。

■Diagram②　距離感や周辺環境の特徴を踏まえ、空間構成を考える。

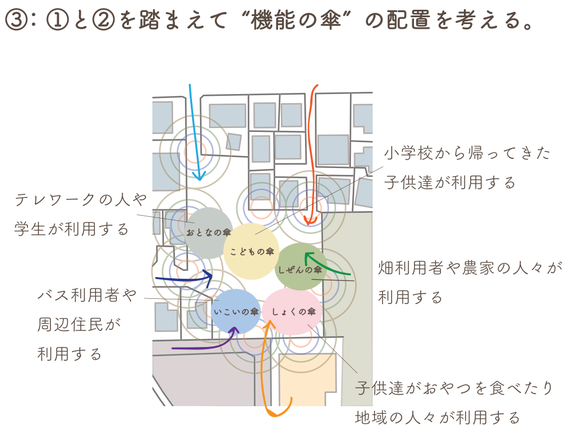
①: 人の流れを考える。



②: 周辺環境と敷地の関係を考える。



③: ①と②を踏まえて″機能の傘″の配置を考える。



■″まちの傘″の傘屋根の様子